様式３

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		さがみはら国際プラン検討委員会（第５回）		
事務局 （担当課）		シティセールス・親善交流課　電話042-707-7045（直通）		
開催日時		令和元年７月８日（月）　１８時３０分～２０時３０分		
開催場所		相模原市役所　本館２階　第１特別会議室		
出席者	委　員	１１人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局	５人 （渉外部長、シティセールス・親善交流課長、他３人）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		１　開会 ２　第３次さがみはら国際プラン（案）について ３　その他		

審　議　経　過

第５回検討委員会について、主な内容は次のとおり。
（○は委員の発言、●は事務局の発言）

1　開会

2　第３次さがみはら国際プラン（案）について
委員からの意見を踏まえ、事務局において再度整理することとなった。主な意見等は次のとおり。

＜第３次さがみはら国際プラン体系図（案）＞

○施策の基本方向１や施策１－１、１－２において「推進」という言葉が繰り返されるが、特に施策１－２について、多文化理解に係る取組をしっかり進めるという意味を込めて、学校教育における多文化理解の「保障」という言葉を入れることはできないか。

○学校教育は基本的に学習指導要領に基づいて行うことになり、多文化理解に係る取組については大切だが、絶対に行わなければならないという位置づけのものではない。「推進」という言葉でも学校は努力できるものと考える。

○「保障」という言葉はかなり強い意味の表現。「推進」でよいのではないか。

○「外国人市民意見の市政への反映」については、外国人市民「による」ということで、少し言葉を足した方がよい。

○施策４－２で「環境整備」とあるが、何を整備するのか分からない。内容が分かる表現にした方がよい。

○基本目標３が、「誰もが国際化の推進に参加できるまちづくり」となっているが、体系図において、主な事業からそのまま素直に読んでいけば、「体制づくり」ということになるのだと思う。「国際化推進の体制づくり」に変更した方がよい。

○本市には米軍関係施設が所在するが、米軍関係者との親善交流について位置付けられないか。

○国際プランは市の総合計画の部門別計画にあたるため、上位計画に沿った形で整理していくものと考える。

○国際協力のところに、SDGsという文言を入れた方がよいのではないか。

●資料２の２ページに記載し、このプラン全体にSDGｓに関する精神が入っていることを表現している。

○SDGsについては、どこか一つの施策にだけ入るというより、全体にかかることが望ましいと思う。

＜第３次さがみはら国際プラン（令和元年７月時点）＞

○第３次さがみはら国際プランという表記と、第３次国際プランという表記が混在している。読み替えるのであれば、どこかに読み替えをつけておいた方がよい。

●整理する。

○第１章の中で、背景や目的、位置づけ、計画期間などが書かれているが、外国人市民アンケートに係る記載については唐突な感じがする。

●外国人の状況を４ページ以降に記載するので、その中に記載した方が、座りがよいのかもしれない。

○９ページに外国人児童・生徒、帰国児童・生徒の状況の表があるが、この外国人児童については、外国籍児童として捉えているか。

●確認する。

○２６ページで、「公共機関へ通訳ボランティアを派遣する」と記載されているが、１０年後もボランティアでの通訳を行うのか。

○市で通訳を雇うということはあるのか。

●本市でもワンストップでの相談窓口を設置することになるが、そこに通訳者として非常勤職員を配置する予定である。

○「職員を配置する」ということも書き込めるのではないか。

○７ページには特定技能のことが記載されているが、主な事業としてはそれに対応するものが記載されていない。何か書き込めないか。

●これまで、市と企業との連携が重要というご意見をいただいていたことから、２９ページの情報提供や、３０ページの外国人市民のまちづくりへの参画の中で、市と企業が連携した中で取組を進めるという記載をしている。

○２８ページの「就労・雇用等に関する相談・支援」の中の「経済団体と連携した中で、外国人を雇用する企業に対する研修を実施し、社会保険への加入促進や、行政等による外国人支援施策に関する情報提供等を図る」についても外国人労働者に向けた取組となる。

○さまざまなルーツを持つ外国人市民に対して何ができるかということを考える中で、一番大事なのはワンストップでの相談対応ではないかと感じる。施策２－１の中にはいろいろな事業が書き込まれているが、相談対応を最初に記載し、かつ、相談対応ではなく「ワンストップサービス」と記載して、明確にした方がよい。

○２１ページの国際展開の推進に係る課題について、大手企業の海外移転と書いているが、企業が海外に移転して市内の中小企業が空洞化したという現実はないのではないか。また、「大手企業に追随して」という記載も、市内企業は業態変更や新たな取引先の確保等の努力をしているところであり、「追随して」と言い切ることはできないのではないか。

○国際プランの中で課題として書くならば、「人口減少時代になり、消費も縮小し、労働力も不足してきたため、グローバル化の視点に立って、海外展開や外国人労働者の確保等を行っていく必要がある」といったことになるのではないか。

○２１ページの国際展開の推進に係る現状について、「海外見本市への出展助成を進めている」と書いているが、海外見本市への出展については、国際見本市に相模原市ブースを作り、市内企業数社で共同出展するという取組も行っているのでこちらの方を例示した方がよいと思われる。

○外国人市民アンケートの結果から、国際交流ラウンジの認知度が低いという数値が出ていた。国際交流ラウンジの存在を外国人市民に周知していく記載も必要だと感じる。

＜第３次さがみはら国際プランの推進について（案）＞

○「多文化共生に取り組んだ市民の割合」を指標にするとなると、目標値や基準値がないと評価できないが、そこはどのように考えているか。

●この秋に基準値を取るためのアンケートを行い、基準値を定める予定である。目標値についてはその後検討することになっている。

○「グローバル展開による雇用創出者数」という指標は、誘致した数と海外展開した事業所数という捉え方の両面あると思うがいかがか。

●グローバル展開については、企業の海外展開や技術導入、また、人手不足への対応として外国人材を確保するというような取組が考えられるが、こうした取組を通じて国内外で創出される雇用数を見ていくこととして考えている。

○「多文化共生に取り組んだ市民の割合」を見るということだが、外国人市民の状況も見ていくことになるのか。

●日本人と外国人から一定数の市民を抽出しアンケート調査を行うことになるため、外国人市民の状況も捉えていくことになる。

3　その他

なし

以　上

さがみはら国際プラン検討委員会（第５回）委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　考	出欠席
1	石川　敏美	公益財団法人 相模原市産業振興財団 常務理事		出席
2	川上　宏	公益財団法人 相模原市体育協会 常務理事		出席
3	北村　美仁	一般社団法人 相模原市観光協会 専務理事		出席
4	金　愛蓮	さがみはら国際交流ラウンジ 運営機構 代表		出席
5	熊谷　晃子	独立行政法人 国際協力機構 横浜センター所長		出席
6	鯉田　哲子	公募委員		出席
7	坂本　堯則	相模原市自治会連合会 会長		欠席
8	佐藤　雲美	公募委員		出席
9	柴田　マリーグレイス	公募委員		出席
10	杉岡　芳樹	相模原商工会議所 会頭	副委員長	出席
11	中澤　隆	相模原市立小学校長会 鹿島台小学校長		出席
12	牧田　東一	桜美林大学 教授	委員長	出席